

# 神奈川大学資格教育課程通信

## 第37号

編集・発行 神奈川大学資格教育課程センター運営委員会  
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1  
☎045-481-5661(代) 内2051

### 「学校教育の未来を託したい」 人間科学部特任教授 小林 力



教師を目指している学生に、「何がきっかけだったのか」と尋ねると、「部活動の顧問の先生に憧れて」という答えが返ってくるのがあります。とりわけ保健体育科の教師を志望する学生に多いと感じます。

私が中学校の管理職を務めていた時のことです。「あと一つ勝てば県大会」という

徒への敬意と温かさを感じました。「勝った試合よりも、むしろ負けた試合が大事」と生徒に語りかける顧問の先生の人間性に惹きつけられました。

部活動は、生徒にとって極めて価値のある教育活動だと思っています。中学校や高校で出会った顧問の先生がロールモデルとなって教師を目指す学生が少なくないのも納得できます。

「学校」のイメージが、かつての教師像・学校像について語り合い、そこから私自身も学びながら、教師のたまごたちを大切に育てていきたいと思っています。

### 国際日本学部の紹介

国際日本学部設置準備委員会

委員長 坪井 雅史



みなさま既にご承知の通り2020年度より、国際日本学部が新たに設置されます。4月からの学部長就任予定者として、簡単にこの学部の紹介をさせていただきます。

国際日本学部は、国際文化交流学科、日本文化学科、歴史民俗学科の3学科から構成され、それぞれの入学定員は、170名、60

名、70名となっています。全学科の学生が、学科を横断して開講される学部教養科目や、学科横断的なゼミナールを履修する中で、学科の垣根を越えて互いに交流出来るようにしたことが、この学部の大きな特徴です。

国際文化交流学科は、これまで外国語学部所属していた国際文化交流学科の入学定員を70名増員し、文化交流、観光文化、言語メディア、国際日本の4コースを設け、これまで以上に多様な関心を持った学生を受け入れられるようにしま

した。従来との大きな違いとしては、観光分野の教員を大幅に増員し観光と文化の関係性を学ぶようになったこと、また日本文化を研究する外国人教員を増員し、国際的な視点から見た日本文化について英語で学べる科目を大幅に増やしたことがあげられます。

また日本文化学科と、歴史民俗学科という新しい学科を開講することで、これまで本学にはなかった全く新しい分野に関心を持つ学生をも受け入れられるようになります。日本文化学科では、日本語学、日本文学だけでなく、日本の古典ならびに現代文化を幅広く学べるようにしております。歴史民俗学科では、大

表1 2019年度教職課程登録者・内諾者・教育実習者数

	1年次		2年次		3年次		4年次			大学院		科目等履修生	
	仮登録	本登録	本登録	内諾	本登録	内諾	実習	内諾	実習	内諾	実習	内諾	実習
法学部	35	10	25	11	31	0	11	0	0	0	1		
経済学部	64	35	33	12	44	1	16	0	0	1	0		
経営学部	15	10	3	3	13	0	3	0	0	0	0		
外国語学部	63	28	31	18	46	3	18	0	0	0	2		
人間科学部(心理発達、人間社会コース)	83	16	70	9	86	0	5	0	0	0	0		
人間科学部(スポーツ健康コース)		47		25		4	23	0	0	1	0		
理学部	86	66	67	34	78	9	15	1	3	2	6		
工学部	61	34	29	11	33	0	12	0	0	0	0		
計	407	246	258	123	331	17	103	1	3	4	9		

注：1.「内諾」は2020年度教育実習の「内諾」を示す。  
2.「実習」は2019年度教育実習を示す。

表2 2020年度教員採用者数

	在学生	卒業生
法学部	0	0
経済学部	3(1)	3
経営学部	0	2
外国語学部(大学院生含む)	3	4
人間科学部(心理発達、人間社会コース)	1	0
人間科学部(スポーツ健康コース)	4	5
理学部(大学院生含む)	3(1)	17(4)
工学部(大学院生含む)	0	1
計	14(2)	32(4)

注：( )は内数で、私立学校採用者を示す。

# 2019年度各課程活動報告

## 教職課程

本学教職課程の活動は多岐にわたりますが、ここでは次の活動について報告させていただきます。

### 段階的な履修条件を設定した教育課程の編成

課程運営において、学年制のような履修条件を設定した教育課程を編成し、学年の継続性を踏まえた計画的履修を促すというのが教職課程の方針です。今年度もこの方針に従って、教職課程履修の学生が段階的に教員に必要とされる知識・技能を高め、学校現場での実践力を身に付けるように課程運営を行いました。

### 主体的・対話的で深い学びを指導する力を育成する少人数クラスの授業運営

教職課程では、多くの授業において少人数クラスを実現し、学生一人一人のアクティブ・ラーニング(討論・模擬授業・プレゼンテーション等)の機会を作り、学生が自ら主体的・対話的で深い学びを経験しつつ、学校現場でそれらを活かして生徒に指導できるように授業運営を行っています。今年度も同様の授業運営が行われました。そして、年度末に、教職課程の授業を担当する専任・非常勤の教員がより良い授業実践に向けて意見や情報交換をする懇談会が開催されました。

## 学校等での現場体験の提供

学校等での現場体験には、近隣の学校でAT(アシスタント・ティーチャー)等を行う学校ボランティアと、近隣の中学生を対象とした個別学習支援としてJIN-KANA学習塾があり、近隣の学校との信頼関係の構築や、体験する学生へのカンファレンスのきめ細やかな実施により、現場体験をする学生の自主性・積極性がこれまで以上に高まってきています。

## 卒業生教員とのつながり

2014年に神大の卒業生教員同士の交流と、教職課程の連携によるよりよい教員養成に向けて、「神大教員ネットワーク」が設立されました。その活動の一例として、毎年8月に「若手教員の集い」が開催されます。今年度は、I部「意見交換会」及びII部「ベテラン教員を交えた協議会」(テーマは「特別な支援を必要とする子どもへのかかわり方」、「職場の人間関係と今どきの子ども」、「小学校での児童への支援の在り方」と総合的学習の時間の取り組み)として、III部「情報交換会・世代間交流」が実施されました。若手教員から率直な意見が出され、

## 教員採用試験対策

今年度の教員採用試験対策講座は、4月〜8月に4年次生を対象に、自治体別模擬試験・論文対策講座・面接個別指導、「教職教養」直前講座、二次試験対策講座等のプログラムが、また、7月以降に3年次生を対象に、スタートガイダンス、専門教養対策講座、全国公開模擬試験、論文基礎講座、「教職教養」対策講座、全国公開模擬試験、特別対策講座(面接、場面指導、模擬授業等)等のプログラムがそれぞれ実施され、教員志望の学生が多く参加しました。

## FD活動―教育研究交流会

教職課程では、毎年、神大の卒業生教員及び在学生を主な対象としつつ、近隣学校等の教育関係者や学校教員経験者の非常勤講師を含めた本学教員とが、それぞれの立場から学校教育や教員養成等について考え、意見交換を行う「教育研究交流会」を開催しています。第I部では、「囚われのいじめ問題―事件報道・当事者、教育実践」と題して、教育社会学者の北澤毅先生(立教大学名誉教授)が基調講演を行いました。次に近藤昭一先生(本学特任教授・小林力先生(本学特任教授)が指定討論を行い、フロアー全体での熱いディスカッションへと発展しました。第II部では、「神大・ユ



教育研究交流会の様子

大西 勝也

## 社会教育課程

社会教育課程では、学校教育の中核となる人材育成を目指し、実践型教育に注力しました。

(1)社会教育主事講習等規程の一部を改正する省令の施行に伴う変更届提出・課程修了者が「社会教育士」と称することができるようになり、養成課程の学習成果が社会で認知され、広く社会教育活動に生かされることを期待されます。

(2)学校外教育機関での社会教育実習・事前に、教育行政・地域分析や社会教育施設の役割等を調べ学習した上で、特別講師の北見靖直氏(国立阿蘇青少年交流の家)より実習の心得を学習。8名の学生が10日間前後の実習。地元の社会教育施設(静岡県三島市民生涯学習センター、長野県上田市上野が丘公民館、神奈川県立青少年センター)、青少年教育施設(国立赤城青少年交流の家、札幌市青少年山の家、埼玉県立名栗げんきプラザ)、その他の関連施設(横浜子ども青少年局向陽学園、静岡県社会福祉法人ハルモニアあかね)。

(3)多様な課題に向き合う体験活動「社会教育演習I」授業(西野博之先生)の1環として、社会教育施設の先進地「川崎市子ども夢パーク」(フリースペースえん)にて見学実習。現場体験実習として「夢ぱまつり2019」(準備・実施7/14・15)に20名の学生が参加。

(4)特別講師による双方型授業「現代教育の課題I」にて竹原和泉氏(横浜市立東山田中学校コミュニティハウス館長7/5)、「女性学・男性学」にて福島光生氏(ライター・コピーライター7/11)、森本薫(ソーシヤルワーカー・カウンセラー7/18)、「生涯学習論」にて多文化共生について佐々木聖聖(神奈川大学、在日中国人学生12/17)が講演。

(5)学生の自主的な地域参画型活動「神奈川区うらしま荘「子どもお楽しみ会」(企画運営11/30)、同区役所

## 学芸員課程

本課程は、学芸員としての基礎知識や文化財・自然科学系資料を取り扱う技能の習得を目的とし、横浜キャンパスと湘南ひらつかキャンパスそれぞれで開講しています。

3年次までに学内での座学と実習で学芸員としての基礎的知識を養い、4年次の「博物館実習II」では、課程の集大成として県内外の特色ある博物館等の施設での見学実習と館務実習を行っている。2019年度は横浜キャンパスで2名、湘南ひらつかキャンパスで14名が実習を行いました。

3年次の「博物館実習I」は、本学所蔵の貴重な古文書・民俗資料を扱う実習や、平塚周辺の恵まれた自然を利用した実習など、本学ならではの内容です。その一例として湘南ひらつかキャンパスの生物実習が挙げられます。本実習は同キャンパスで2009年以降毎年続けられ、本年度は9/10〜12に実施されました。初日の午前中に小型漁船をチャーターし、担当教員とTAにより平塚沖のドレッジで実習用の生物試料を採取。履修生はその試料を基に、実験室で生物の抽出、整理、同定、保存法を学習し、課題としてこれらの生物試料の博物館での利用法について考察しました。生物系学芸員の重要な技能である同定作業は、履修生にとって生物に関する深い知識と経験を要することを体験する良い機会になったと思います。

2023年に理学部は横浜キャンパスに移転となり、この実習をその後も継続することは困難となるため、これに代わる新たな実習プログラムの開発が今後の課題です。

加瀬 友喜

## 日本語教員養成課程

2019年6月、「日本語教育の推進に関する法律」が公布・施行されました。これによって外国人児童生徒等に対する日本語教育の体制整備と教員養成、日本語教育の水準の維持向上、日本語教育に従事する者の能力及び資質の向上等がはじめて法的根拠を持つことになりました。また、「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告改訂版)」文

「地域づくり大学校」(4名)、「子ども食堂」(ふれあいっこ三ツ沢、かたくらんど)、「餅つき大会」(南神大寺団地自治会12/8)ほか多数の場でボランティア活動。 齊藤 ゆか

化審議会国語分科会2019年3月)においては、日本語教育人材に求められる資質・能力と養成・研修の在り方が示され、日本語教師の国家資格についても審議されつつあります。2019年度には在留外国人は270万人を超え、技能実習生の受け入れに関する法改正の実施などは、日本国内の外大化を背景として

国内外のあらゆる分野で活躍

日本語教員養成課程では、

卒業と同時に本課程を修了します。修了生のうち2名が日本語学校(東京都内)、1名が高校英語科教諭(神奈川県)、2名が企業に就職が内定しました。

日本社会の多文化化に対応できる人材の育成はどの職業領域においても喫緊の課題です。修了生が、それぞれの仕事や生活の場で、本課程で学んだ事柄を生かせることを心から願っています。

富谷 玲子

### 教職課程 教育実習記録より

2019年度、教職課程では全国の中学校・高等学校の協力のもと、103名が教育実習を行いました。実習生は「教育実習記録」に、実習期間中に体験した出来事、実習に対する振り返りや日々の取り組みを通して得た気づきをまとめます。実習生の新たな学びの様子を実際の声から紹介します。

3週間を通して自分は授業の準備だけをしておけば大丈夫でしたが、先生方はその他に多くの職務があり、その仕事を効率良くこなして、教員はすごいと改めて感じました。生徒の成長を感じることはやりがい、喜びになりました。教員は魅力的で一日一日が楽しく、早く過ぎる職業であると感じました。

授業の展開を野球に例えて考えると、特殊な配球を使って組み立てるよりも、シンプルなストリートと大きく曲がる変化球を使って組み立てたほうが、生徒にとって「分かる」ということになるのではないかと考えた。このことは生徒指導にも応用できそうである。

自分が中学生だった時には、生徒が最初から最後まで進んでいた印象ももっていました。しかし、実際には先生方が、生徒が主体となるように適度なサポートをしていることがわかりました。大人が言えば、すぐに終わってしまいうけれども、生徒が自分たちで決められたと思うことができる工夫が大切であると感じました。

指導教員の先生方のお言葉からは、実習生が一人前の教員として成長できるように、厳しくも温かい指導を頂いた様子がうかがえました。各先生の教育観、生徒観、授業観が垣間見え、学生が多くのことを学ばせていただいたことが分かります。実際のいくつかの記録をご紹介します。

正しい知識があるからこそ、伝えるべき情報の取捨選択ができます。授業がどんなスタイルであれ「対話」であることが重要です。常に生徒の状況を見ながら、今必要なことを適切なタイミングで進んでいく。それが生徒との「対話」のベースだと、私は思っています。だからこそ、自信を持てるだけの教材研究をしてください。「知は力なり」です。

生徒が何を求めているか、どんなことへの理解が難しいかを考えることも教材研究の一つです。用いる言葉を考えて、生徒の理解を助けようとする姿勢が伝わってきました。

1つ1つの授業準備を緻密に行い、始めは教師主導だった授業も、回数を重ねることに生徒と共に学ぶ主体的な授業へと近づいていきました。一方で、生徒とのコミュニケーションや言葉遣いはまだまだ課題があります。教員の多忙さはこの実習の比ではありませんが、今後力を高め、立派な先生になってください。

教師と生徒が共につくる授業は、お互いの思考の流れが一致している必要があります。そのため、話のテンポや投げかける言葉には工夫が必要です。ぜひ、生徒と共に課題に取り組み、同じ視点で授業を楽しんでください。

### 分野を超えた経験 —博物館実習を終えて—

理学部 生物科学科 4年 後藤 紗羅

厚木市のあつぎ郷土博物館では、普段見学するだけではわからない博物館で働く上での貴重な経験をさせていただきました。自分の専門ではない人文系分野の実習で、特に厚木市の指定文化財の古民家岸邸の維持管理に関する実習は忘れられない体験となりました。人文系分野の業務は自然科学系分野と共通する業務もありですが、この体験を通して、収蔵方法等の違いについても身をもって知ることができました。

進めなくてはならない大変さも経験できました。また、そのような裏方の業務だけでなく、実際に来館された方々と接する機会も多く、ガイドの難しさや来館者とコミュニケーションを取る大切さを学ばせていただきました。観察会やガイドを通じては、実際に働いていらっしゃる学芸員や職員の方々の技術力や対応力の高さも体感することができました。他の実習生との協働作業を通じて、普段学んでいない専門分野による考え方の違いや、ガイド方法の違い等を知ることができ、とても有意義な実習となりました。

日本語教員養成課程では、外国にルーツを持つ中学生の日本語支援教室と日本語学校の二箇所から実習先を選べる。私は「川崎市ふれあい館」の日本語支援教室で実習を行った。教室には様々な背景を持つ子どもたちがいる。全ての学習者が日本語習得に積極的であるとは限らない。学習者の日本語レベル以外に、学校生活の状況、本人の意思等も考慮しつつ、一人ひとりにあった学習を行わなければならない点が多い。さらに、日本語を学んでいる最中の子どもが理解できるように伝え方を工夫する必要がある。日本語で、時には学習者の母語や絵、写

真を用いて意思疎通ができた時の喜びはとても大きいものであった。母語が通じない国での生活は、決して楽ではないだろう。それでも、自分のペースで前に進む子どもたちや支援者の姿、そして学習者と支援者の暖かな信頼関係が強く印象に残っている。ふれあい館が子どもたちにとっての居場所となっていることを実感した。

実習を通して、日本語学習者の現状と彼らへの配慮について、より明確に意識するようになった。今後、日本語教育に携わる機会があれば、実習で得たものを活かしながら積極的に関わっていきこうと思う。

### 日本語を学ぶ子どもたち —「川崎市ふれあい館」での教育実習を終えて—

外国語学部 英語英文学科 4年 本間 颯人

私は今回、国立赤城青少年交流の家を社会教育実習先として選びました。山登りが好きなので、小学5年生から中学2年生が赤城の山々を登る「限界突破キャンプ」にスタッフとして参加しました。そしてこの実習を通じて、私は3つの経験をしました。

1つ目は、群馬県前橋市に行ったことです。自宅から電車で4時間もかかるので不安はありましたが、赤城山などの山々に囲まれた自然豊かな場所、とても新鮮な気持ちでした。

2つ目は、子ども達と泊8日を共にしたこと。1週間以上家に帰らないことが無かった私は初めての経験でした。そしてその間は昼も夜も常に子ども達にけがや事

故がないように気を配らなければならぬので、とても大変でした。3つ目は、他大学の社会教育実習生との出会いです。他大学の学生が子どもと話すときに必ず視線を下げて会話をする様子を見て、子どもとの話し方にも配慮することに気づきました。子どもとの話し方を工夫してよく子どもの話を聞くことがとても重要だと学びました。

思い切って自宅から遠い群馬県を実習先の地として選び、経験を積んだことが私を大きく成長させてくれました。実習先の職員皆様のご指導のもと、仲間と協力してこのキャンプを成功させた時の達成感はとても大きいものでした。勇気を出して挑戦することで、新しい世界を発見することができると思います。

### 社会教育実習での経験を通じて

工学部 建築学科 3年 岡部 和希

私は今回、国立赤城青少年交流の家を社会教育実習先として選びました。山登りが好きなので、小学5年生から中学2年生が赤城の山々を登る「限界突破キャンプ」にスタッフとして参加しました。そしてこの実習を通じて、私は3つの経験をしました。

1つ目は、群馬県前橋市に行ったことです。自宅から電車で4時間もかかるので不安はありましたが、赤城山などの山々に囲まれた自然豊かな場所、とても新鮮な気持ちでした。

2つ目は、子ども達と泊8日を共にしたこと。1週間以上家に帰らないことが無かった私は初めての経験でした。そしてその間は昼も夜も常に子ども達にけがや事

神奈川大学 心理・教育研究論集  
発行 神奈川大学教職課程研究室  
第 46 号

論文  
・グローバル化時代の日本人の育成—カリキュラム開発の観点からの検討— 安彦 忠彦  
・英語学を文法指導に生かす(1) 久保野雅史  
・個性発達と系統発生の並行性とピアジェ、フロイト 関口 昌秀  
・中学校数学科教育における教材の価値を生かした指導  
・ICT活用とアクティブ・ラーニングの視点を通して— 安藤 秀明  
・NPOにおける「電子カルテシステム」導入の効果性— 教育ICTとそれを活用する業務プロセスの実装—  
新宅 圭峰  
工藤 彰子  
齋藤 ゆか  
田坂 裕子

・学齢期の早産低出生体重児における教科学習と学校生活の実態 鈴木 美子  
研究ノート  
・学級活動に活かせる「子どもの権利条約」の条文のグループ化 鈴木 美子  
・神奈川大学 学校ボランティアの取り組み 2017-2019 鈴木 美子  
—教師を目指す学生たちの教師観の形成を支援して— 鈴木 美子  
・工業高校における進路の現状と課題 鈴木 美子  
・一人一台タブレットPC必携の効果と課題 鈴木 美子  
・「21世紀型スキル」育成を目指した教材開発 鈴木 美子  
—「推理パズル」を活用した育成プログラム— 長島 宏希

指導法・実践報告  
・「模擬投票」を活用したシズンシップ教育の取り組み 堀 俊  
—主権者としての資質を向上させる高校公民科指導の考察— 堀 俊  
・三角関数の加法定理の指導を巡って 榎本 里志  
・主体性を育む理科指導について  
—中学校理科におけるレポート指導について—の考察— 西 嘉之  
—一般教養としての「生物教育」に向けて— 吉田 修久  
・高校生のための音声づくりから発表活動まで 萩原 一郎  
・簿記会計教育におけるアクティブ・ラーニングの可能性について考える 遠藤 耕二

共同研究  
・スクールカウンセラーによる予防的取り組みとしての心理教育 萩野佳代子  
—「こころの授業—ストレスマネジメント」— 徳永まゆ子  
・稲木康一郎

第 47 号

論文  
・「社会的な見方・考え方」を育てる授業  
—歴史的分野での思考力とは何か— 鈴木 英夫  
・特別活動における学校行事と生徒会活動の展開  
—学習指導要領の変遷をふまえて— 池田 幸也  
・特別活動における学級(ホームルーム)活動の意義  
—Society5.0を見据えた学校教育活動の基盤として— 池田 幸也  
・中高生と地域の大人による課外活動が社会参画意識と学習意欲にもたらす効果  
—地域との協働を基盤にした総合的な探究の時間への取り組みに向けた可能性— 倉岡 正高  
・知的障害者の教育歴・キャリア形成プロセス  
—知的障害特別支援学校高等部卒業生のインタビュー調査— 山内 俊久

研究ノート  
・学外活動に伴う授業を考える  
—教育実習と介護等体験を中心として— 関口 昌秀  
・学習指導上の技術・方法に関する一考察 安藤 秀明  
・学校教育における「教授」(「学習」)に関する一考察  
—理論的位置づけと実践上の課題— 今井 聖  
・高等学校数学の考え方の理解のための指導法について  
—実感的な理解に向けた指導法の一考察— 伊藤 真人  
・高等学校 次期学習指導要領「工業」について  
—「工業情報処理」を中心に— 後藤 博史  
・学校の教育相談で扱われる諸課題  
—不登校・いじめ・児童虐待・非行について— 関水しのぶ  
・Society5.0、IoT、AI、ICTそして「未来の教室」 中村 眞一

指導法・実践報告  
・学校教育目標の共有に関する実践 小藤 俊樹  
・共生社会を目指したインクルーシブスポーツの実践  
—教育方法の検討— 山田 雅之  
・大学アイスホッケーチームにおけるICTの活用  
—ゲーム分析環境の構築を目指した事例検討— 山田 雅之  
・高校「倫理」の「宗教」の単元の指導  
—人間としての在り方生き方についての自覚を育む高校公民科指導の考察— 堀 俊  
・小・中学校理科における粒子概念の形成について  
—ジグソーパズルによる保健体育科の授業づくり— 西 嘉之  
・英語学を文法指導に生かす(2) 久保野雅史

### 後輩へのメッセージ 「教員採用試験合格者より」

神奈川県 高等学校 英語 合格  
「目の前の事を着実に」  
外国語学部 英語英文学科 科目等履修生 吉川 将太

私は英語英文学科の科目等履修生になる前、経済学部の学部生として4年間在籍していました。その際に、留学や国際交流、海外旅行などの機会を通して英語の魅力に触れ、学びを深めたことで、その魅力が子ども達に伝えたいという思いが次第に強くなりました。それらをきっかけに、英語教師になることを目標に掲げ、卒業後、英語英文学科の科目等履修生を選択し、これまで学んできました。

私は、模擬授業の際に上手くできたと感じたことは無く、教育実習でも充実感があったものの、その反面挫折も味わい、教員採用試験に合格する自信は全くありませんでした。ただ、一つだけ心掛けていたのは「今すべきことを常に考え、目の前

の事を着実に取り組むこと」でした。試験の準備もそれを心掛けて行いました。ストレスもありましたが、自分が前進することにワクワクしながら、取り組むことができました。

私が皆さんに伝えたいことは、教員採用試験に対して「難しい」という先入観を捨て、「最後まで諦めない」ということです。また、他者からの指摘やアドバイスを受ける「素直さ」も、学びの中で大切にしてほしいです。様々なプロセスがある中での挑戦ですが、自分には大きい可能性があるということを感じてほしいです。

最後に、私が合格できたのは、支えていただいた方々の存在が大きかったと考えています。ご支援いただき、本当にありがとうございます。ごさいました。

「恩師のような先生になりたい」という思いを続けて8年、やっとそのスタートラインに立つことができました。私がここまで来ることができたのは、多くの人と出会い、支えられてきたからです。

私自身勉強が得意な方ではなく、学内の論文対策講座では、「このままでは教員採用試験に間に合わない」とまで言われました。そのような状況の中で、先生方からは多くのアドバイスをいただき、教職課程の友人は共に勉強や対策をしてくれ、家族は最後まで応援してくれました。この多くの心強い支えがあったからこそ、私は合格を掴み取ることができたのだと思います。

### 栃木県 高等学校 保健体育 合格

「目標を達成するための覚悟」  
人間科学部 人間科学科 4年 田村 優風

私が教員になると決めたのは、高校1年生の時です。そこでお世話になり支えてくれた恩師に憧れ、「先生のような教師になりたい」と思ったことがきっかけでした。今こうして、教壇に立つ資格を得ることができた

のは、家族や友人、学校関係者など多くの方々の支えがあったからだ実感しています。私が皆さんにお伝えしたいことは、「目標をしっかりと立て、覚悟を持って行動することの大切さ」です。自分のやりたいこ

### 横浜市 中学校 社会 合格

「大切なのは続けること」  
人間科学部 人間科学科 4年 内田 涼介

「恩師のような先生になりたい」という思いを続けて8年、やっとそのスタートラインに立つことができました。私がここまで来ることができたのは、多くの人と出会い、支えられてきたからです。

私自身勉強が得意な方ではなく、学内の論文対策講座では、「このままでは教員採用試験に間に合わない」とまで言われました。そのような状況の中で、先生方からは多くのアドバイスをいただき、教職課程の友人は共に勉強や対策をしてくれ、家族は最後まで応援してくれました。この多くの心強い支えがあったからこそ、私は合格を掴み取ることができたのだと思います。

最後に、私が合格できたのは、支えていただいた方々の存在が大きかったと考えています。ご支援いただき、本当にありがとうございます。ごさいました。

「恩師のような先生になりたい」という思いを続けて8年、やっとそのスタートラインに立つことができました。私がここまで来ることができたのは、多くの人と出会い、支えられてきたからです。

私自身勉強が得意な方ではなく、学内の論文対策講座では、「このままでは教員採用試験に間に合わない」とまで言われました。そのような状況の中で、先生方からは多くのアドバイスをいただき、教職課程の友人は共に勉強や対策をしてくれ、家族は最後まで応援してくれました。この多くの心強い支えがあったからこそ、私は合格を掴み取ることができたのだと思います。

### 神奈川県 中学校 数学 合格

「教員としての目標」  
理学部 情報科学科 4年 岡本 大輝

私が教員として掲げる目標は、2つあります。1つ目は、一人でも多くの生徒に数学の興味を持ってもらうことです。数学は中学生で苦手意識を持つたり、嫌いになったりする生徒が多くいます。その現状を打破するために、身近な事象を取り上げた授業や主体的・対話的な深い学びの場を積極的に提供していきたいです。また、ICT活用などの時代に合った方法も学び、自己研鑽をしていきます。

2つ目は、軟式野球の発展に寄与することです。小学生の頃に始めた野球を大学でも続けました。軟式野球部で活動する中で、幸運なことに野球部の所属す



教員採用試験対策講座の様子

### 相模原市 小学校 合格(大学推薦)

「本当の気持ち」  
外国語学部 英語英文学科 4年 石本 諒

私は、高校の英語教員になりたいと思い、神奈川大学へ入学しました。高校野球の指導者になりたいとも思っていた私は、高校の教員になるのがベストであると考えていました。大学2年生から母校の野球部インストラクターも経験し、高校の教員への道を進んでいました。そんな中で、小学校での学校ボランティアが私の人生を大きく変えました。私は小学校で

のボランティアを通して、子どもたちの素直さや可愛さ、次第に心を惹かれていきました。子どもたちの笑顔を見てると、自然に心から自分自身も笑っていました。また同時に、野球以上に子どもが好きということに気付かされた瞬間でした。

私はそれから本格的に、小学校教員を目指すようになりました。週に一度のボランティアで得られることを大

切に、なにを学んだか書き留めるようにしていきました。また、多種多様な特徴を持った児童が多いため、普段の生活から様々な人に関わろうと心がけていきました。様々な人と関わり、その人たちの考えや価値観を知ることができたことが、自分自身の何よりの成長につながりました。

本気で教員を目指すのであれば、何よりも経験することが大切だと思います。経験することで自分自身の本当の気持ちに気づくことができると思います。

### 神奈川県 高等学校 保健体育 合格

「目標を達成するための覚悟」  
人間科学部 人間科学科 4年 田村 優風

私が教員になると決めたのは、高校1年生の時です。そこでお世話になり支えてくれた恩師に憧れ、「先生のような教師になりたい」と思ったことがきっかけでした。今こうして、教壇に立つ資格を得ることができた

のは、家族や友人、学校関係者など多くの方々の支えがあったからだ実感しています。私が皆さんにお伝えしたいことは、「目標をしっかりと立て、覚悟を持って行動することの大切さ」です。自分のやりたいこ

### 2019年度 資格教育課程センター 運営委員会名簿

委員長 大西 勝也  
副委員長 関口 昌秀(教職課程) 齊藤 ゆか(社会教育課程)

【教職課程】 萩野佳代子 加藤美智子 古屋喜美代 間山 広朗 近藤 昭一 鈴木 英夫 鈴木 耕太 望月 耕太

【学芸員課程】 大川 啓 安室 知 小熊 誠 廣田 博巨 金沢 謙一 加瀬 友喜

【日本語教員養成課程】 富谷 玲子  
【資格教育課程】 八重樫典子 本多 夏織 佐武重紀 里村 友実 間島 祐紀

【平塚教務課】 蕪木 青空

### 編集後記

本学では、2020年度の国際日本学部の設置、2021年度のみならず、地域における新キャンパス開設と、今後大きな動きを予定しています。

国際日本学部では、本学では初めて国語科の教員養成を行います。そのため教職課程には、これまで以上に広範な領域をカバーした取り組みが求められるこ

望月耕太